

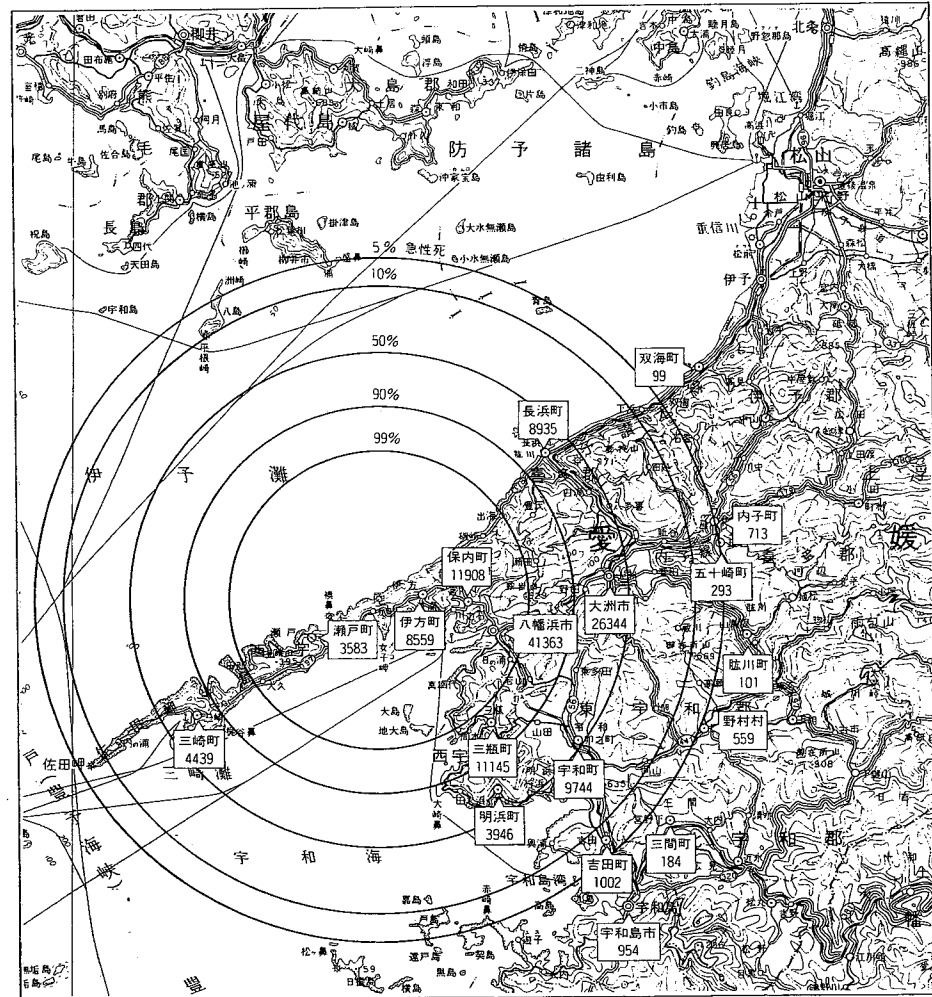
伊方3号炉

西日本ほぼ全域が危険地帯に！

四国、松山市の南西およそ五五キロ離れたところに、九州に向かって突き出た半島がある。佐田岬半島と呼ばれるこの細長い半島の付け根にあるのが、四国電力の原発三基である。1、2号炉は五六・六万キロワット、3号炉は八九万キロワット、ここではこのうち出力の最も大きい3号炉の事故を考える。前と同様五種の急性死割合の領域と、1%以上の急性死者が出る地域の死者数を示したのが①である。これを見ると人口の比較的多い八幡浜市と大洲市がそれぞれ九九%、五〇%急性死圏内に含まれている。

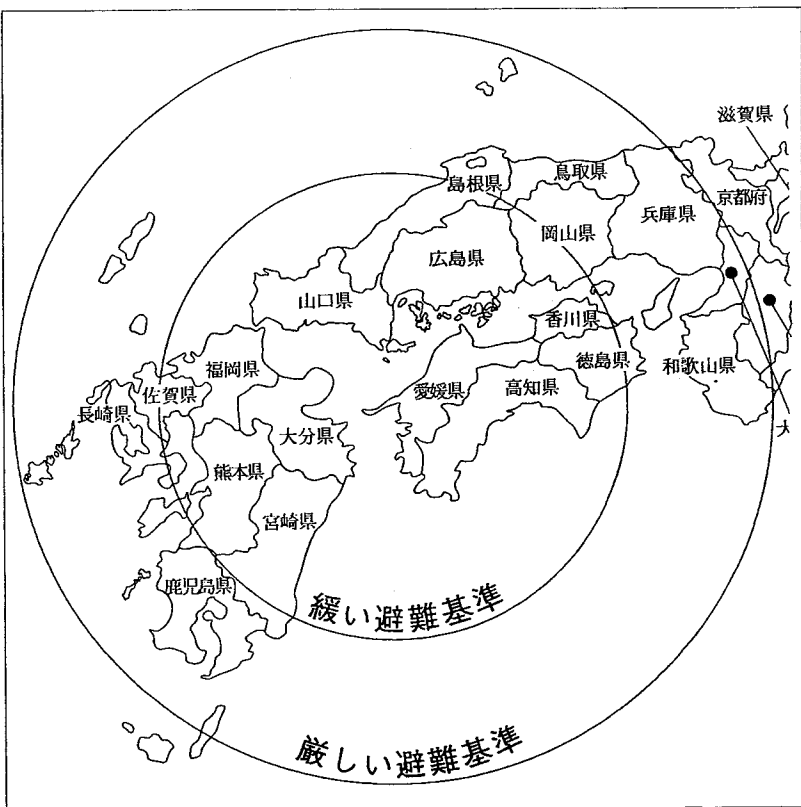
一万人以上の急性死者が出るのは、風が九〇度の方向(四万七〇〇〇人)、一〇五度の方向(四万二〇〇〇人)、一二〇度の方向(四万二〇〇〇人)、一三五度の方向(一万三〇〇〇人)などである。中でも八幡浜市の四万二〇〇〇人が群を抜いている。

ガン死者数の方向分布を示したのが②である。大都市から遠いこともあって、さすがに若狭の場合に比べ被害規模は小さくなっているが、それでも最大の六〇度の方向では二二四万人のガン死者が出る。そのうち最大のガン死者は、やはり

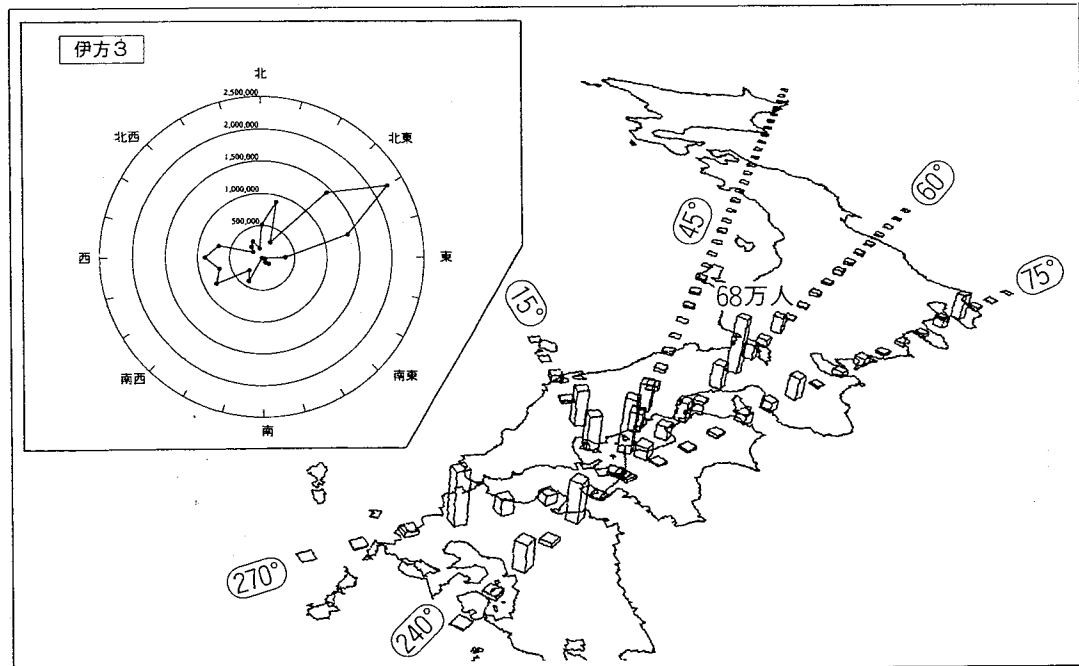


図①

近畿に集中しているのがわかる。そして③に見るように、緩い避難基準でさえ、四国全域、九州のほとんど全域と中国地方の半分がすっぽり包まれている。近畿地方での何十万人ものガン死者が出るのを避けるためには、厳しい避難基準を採用しなければならないことがわかる。



図③



図②